

# 遠距離介護が、見えてくる子づくりの親づくり

## パオッコ活動現場より

NPO法人パオッコ「離れて暮らす親のケアを考える会」 太田差恵子

昨年の秋は「離れて暮らす親の介護」の講演で地方に出向く機会がたびたびありました。主なところは北海道北見市、熊本県熊本市、香川県観音寺市。いずれも、必ずしもいなかとはいえませんが、半日くらいの空き時間を利用して、周辺を歩く機会をもつことができました。

私は大学院の修士で学んできますが、そのひとつの講義で学んだことが頭をよぎりました。「お金」は幸福のモノサシではなく、あくまで生活するためのツールであることを忘れてはならない。

北見市からは、午後の空き時間、飛行機搭乗までの半日、オホーツクを眺めに、網走市街最

寄りの「北浜駅」に出かけました。オホーツクの美しさに魅了され、心が空っぽになるような不思議な体験をしました。「北浜駅」にはオホーツク海岸、木造駅舎を利用した駅レストラン「停車場」があります。コーヒーを頼むと、店の方が「よかつたら食べませんか」と手作りのお菓子をだしてくれました。その笑顔にほっとし、甘いお菓子が妙においしく感じられました。

熊本では、熊本空港から公共バスで阿蘇へ直行。夕方には熊本市内で打ち合わせがあったため、これも半日のみ。天気に恵まれ、ロープウェイで山頂まで登ることができました。壮大な山々。そして火口底のエメラル

ドグリーンの湯だまり。自然とは、いかに偉大であるか。

観音寺市には、JRで瀬戸大橋を渡ります。途中、車窓から海と光のなかに小さな島がいくつも浮かぶように存在。船も見えます。駅をおり、数分も歩けばいなかの風景が広がっていました。美しい橋がアクセントのように。公営の温泉は、料金もとても安く、地元の人でにぎわっています。

これらの経験で得たことは、「自然は平等」であるということ。自然は、「金」のある人にも、「金」のない人にも、平等にいやしを与えてくれる（逆に平等に災害をもたらすということでしょう）。

ない、心底、「何もないところ」との思い、「ススキ」を嫌っていることは明らかでした。

確かに、ずっとそこにいる人にとつては、「美しい」とか「感動」とかいう言葉では語れない実情もあるでしょう。都会のように便利な施設やサービスも少ない。

彼女に限ったことではありません。いなかに暮らす人には、「何もないところ」と本気で卑下するケースが少なくないように思うのです。

金では買えない、壮大な自然があることをもって「誇り」に思うことはできないものでしょうか。おとなが「卑下」するから、一層、若者が都会に流出していくのではないのでしょうか。

と、考えていると鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島連山の新燃岳が噴火。土石流に対する警戒態勢が続いています。また今冬は雪が多く、各地で雪かきをおこなう高齢者の映像もなんども見ました。やはり自然のすばらしさと災害は表裏一体なので

金では買えない、視覚的にも感覚的にも、切迫するような偉大なものに触れた気がします。それらに触れている時間、わずかな時間ではありましたが、私は確実に「幸福」でした。

そんな経験のなか、少し気になることがあります。阿蘇では阿蘇観光をした後、帰りは、阿蘇駅でバスを乗り換え、熊本市内に向かいました。阿蘇駅で乗り換え時間が45分ほどあったので、駅前の公共温泉で足湯を楽しみました。

足湯のみの利用は無料です。たまたま傍で掃除をしていた従業員に話しかけました。心地よい足湯を利用してはいる人は誰もおらず、私ひとりだったことが腑に落ちなかつたからです。

「なぜ、誰も使っていないんですか。こんなに気持ちいいもの、私の独占なんて」と私。

「朝一番で来るお年寄りが数人いますが、ほかは、そんなに人はきませんよ」と従業員。

私は不思議に思いながらも、話を続けました。

どう連帯するかを考えるほうがいいと思うのです。

経済的、商業的、そして家族間としても大きな社会テーマです。先のような地方都市からも私に「離れて暮らす親の介護」について講演の依頼がきます。それは、それほどに核家族が普通のこととなっている実証でしょう。

折しも、国民の「幸福度」を測ろうとする政府の取り組みが本格化しているようです。内閣府は昨年12月「幸福度に関する研究会」の立ち上げを発表しました。幸福度に関する統計の整備方針を「新成長戦略」に盛り込み、2020年までに「幸福感を引き上げる」との目標らしいです。

この研究会のなかで、いなかと都会の課題はどのように盛り込まれていくのでしょうか。高齢化率がどんどん上がっていく地方。都会に暮らす者、都会に暮らす子にできることはどんなことでしょうか。

NPO法人パオッコ

## ～離れて暮らす親のケアを考える会～

親世代はできることなら生涯、住み慣れた家で住まい続けたいと望み、子世代も仕事や子どもの教育などを考えると、故郷に戻ることは容易ではありません。そんな状況のなか、親の心身に衰えが生じると子世代はどうしたものかと悩みます。

パオッコは「ひとりの経験はきっとみんなの役に立つ」という理念のもと、情報や体験を共有。ぜひ、ホームページに遊びにきてください！

〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-8  
本郷春木町ビル9F インキュベーションハウス内  
ホームページ <http://paokko.org>